

令和3年度 中央区立銀座中学校 外部評価報告書

評価委員：堀内委員長、倉澤副委員、中村委員、三浦委員、竹田委員、高安委員
中野里委員、川崎委員

報告書作成者：倉澤副委員

評価時期 令和3年3月

1 重点目標の評価

重点目標1について

- 学校の活動が制限される中、タブレット端末を活用した授業を推進し、学校が計画的に研修を進め指導内容を行ったことは、生徒の学力向上に大きく寄与している。
- 生徒は落ち着いて授業に取り組み、意欲的に学習する姿勢が伝わってくる。来年度は、教員の意思統一をすすめさらに高めて欲しい。
- 来年度から2年間かけて中央区教育委員会研究奨励校となる。この研究をとおして授業の質の向上、確かな学力の向上に努めてほしい。

重点目標2について

- 生徒の状況について学校が定期的に確認し、情報を共有する取組が行われている。さらに、保健室や相談室等、スクールソーシャルワーカー、関連機関等と連携し、個に応じた対応を組織的に行っている。
- 通常学級と特別支援学級の交流が組織的に行われ、生徒の相互理解が進み思いやりの心が育てられている。
- いじめや道徳教育に関しては、なかなか見える形とならないものである。保護者の方々に実感できる指導、情報発信を模索し改善に努めてほしい。

重点目標3について

- インターネット、SNS等の利用、特に配布されたタブレット端末に関する情報モラルに関する指導は、保護者の理解と協力を得て一層充実させる必要がある。
- コロナ禍でも様々な工夫をしながら行事を実施し、生徒が一人一人に役割が与えられ、主体的に取り組む機会が設けられている。
- 進路学習においては、職業調べ、職業講演会、上級学校調べ等を通じて将来の進路を考える機会を設け、自己実現へむけてた意欲を高めるキャリア教育が推進されている。

2 今後の改善に向けた意見

- 多様な情報があふれる中で「心と頭で考える」ことの大切さが求められている。非常事態だからこそ他者の立場になって考え「共生する心」を育む必要がある。
- 学校評価の活用の際して、学年ごとの分析があると教育活動の検証には有効である。

3 その他の意見

- 学校評価は生徒保護者ともに学校の教育活動に理解を示し、生徒・教員・保護者の間に厚い信頼関係が築かれていると感じる。
- 学校の取組と改善点について説明をする姿勢から、組織的に教育活動を進めていることが感じられる。